

CONTENTS

扉 ……

校歌 ……

校長 ……

恩師 ……

開園 ……

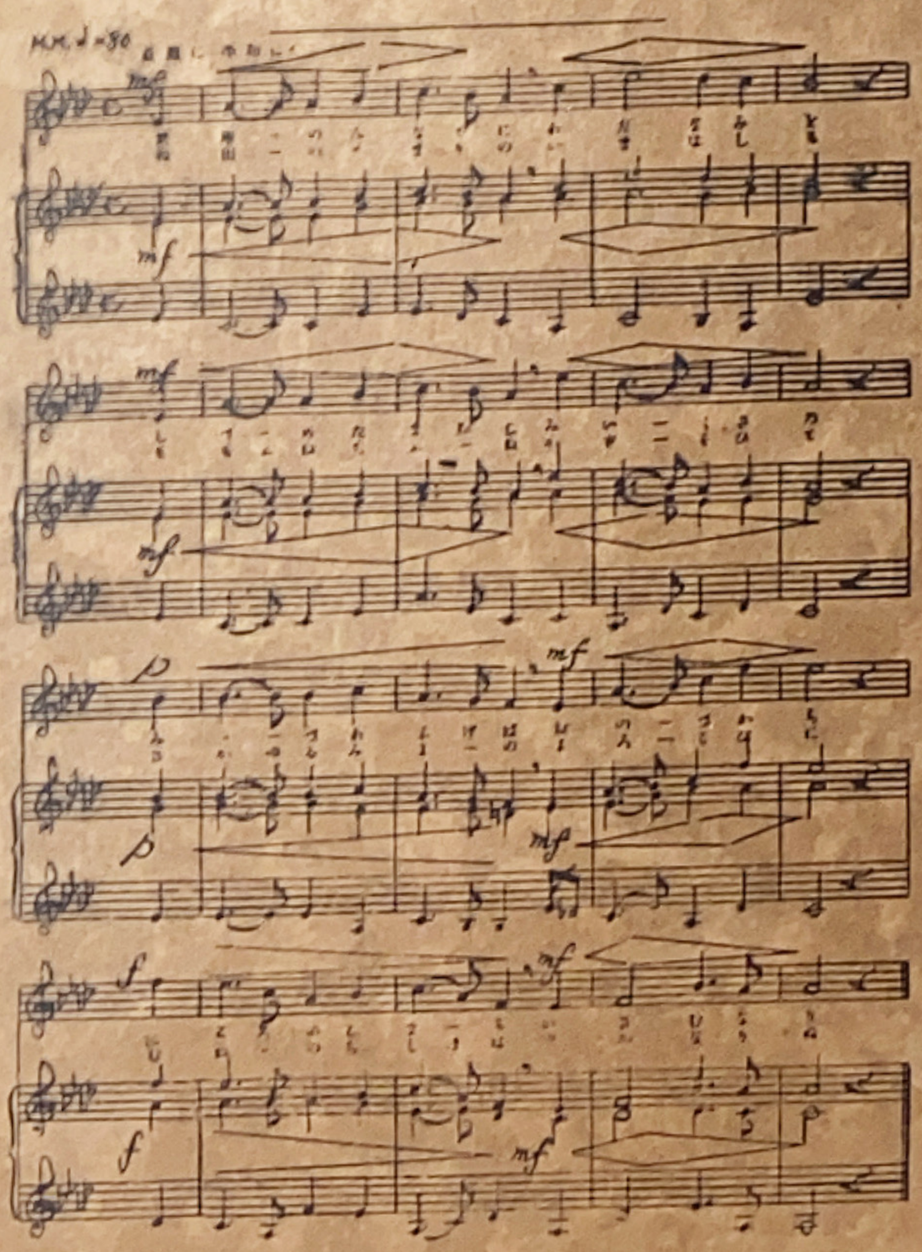
山の一日 ……

追憶 ……

山を去る人々 ……



校歌

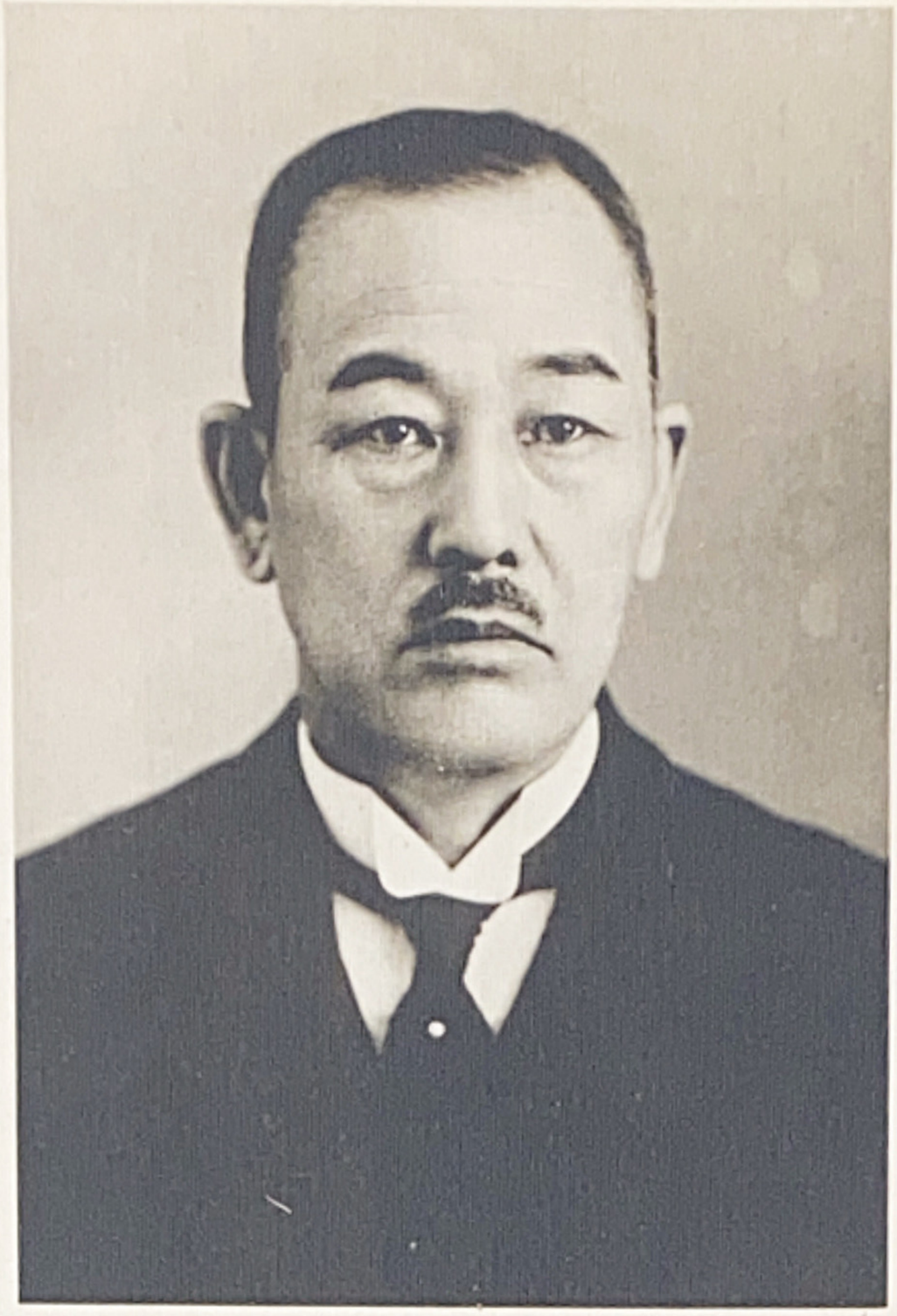


(一) 武庫の水門に 伏浪を、
鎮めし皇軍の、
威風仰げば 日のつかも、
心の駒も いさむなり。

(二) 和田の泊の 今はしも、
苅ゆる御世の 春べに、
百船千船 数そいて、
賑の高鳴り ぬる哉。

(三) 摩耶の窓の あけにけに、
松の度は 諭山の、
芙蓉の雨風 音づれて、
松のみさをの 色深し。

(四) 精進 潮を 掬びて ハ、
武錬の峯を 越えそこを、
千尋の底の 珠も瘦む、
桂の枝 ハ 揮さるべし。









持他春

風不接

秋窗以

已

惠













































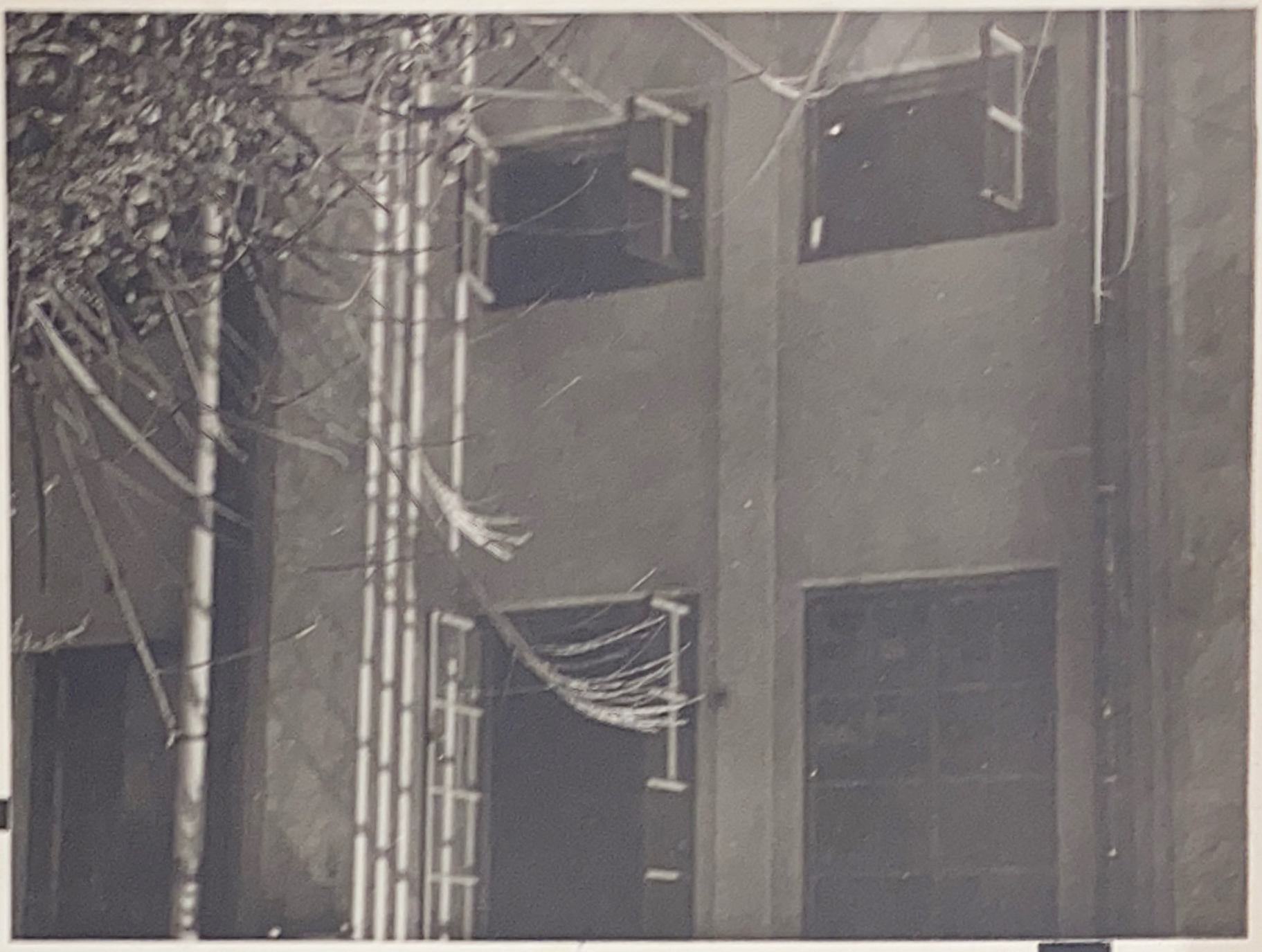
















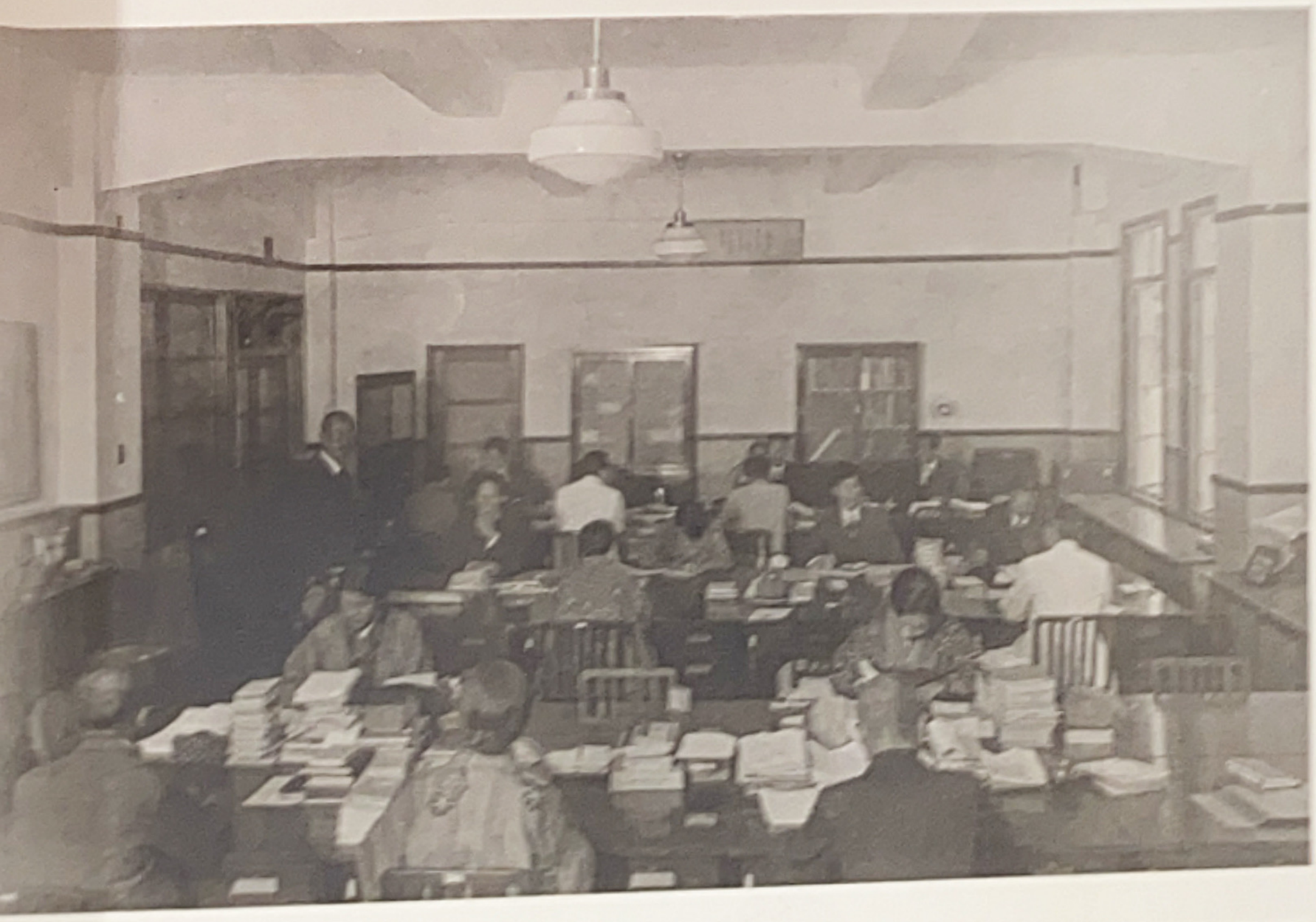






校長室







講堂



圖書室

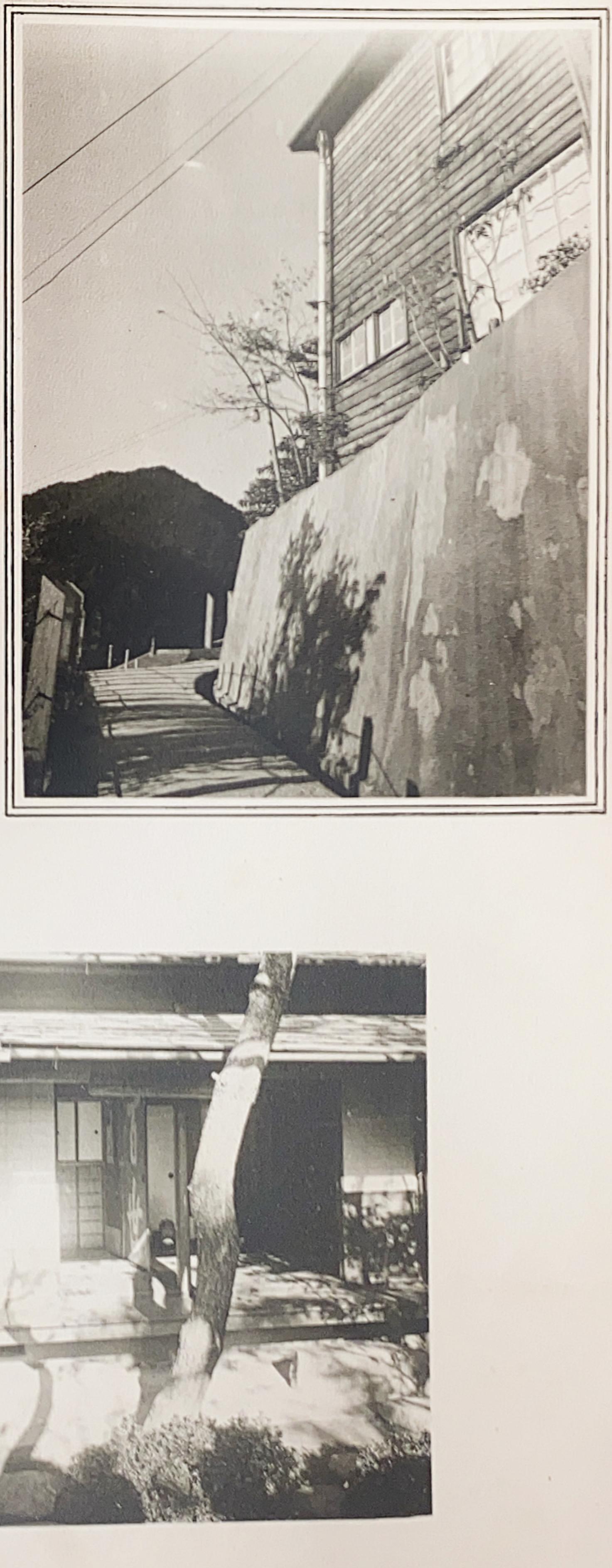


音樂室





茶室　松籟館



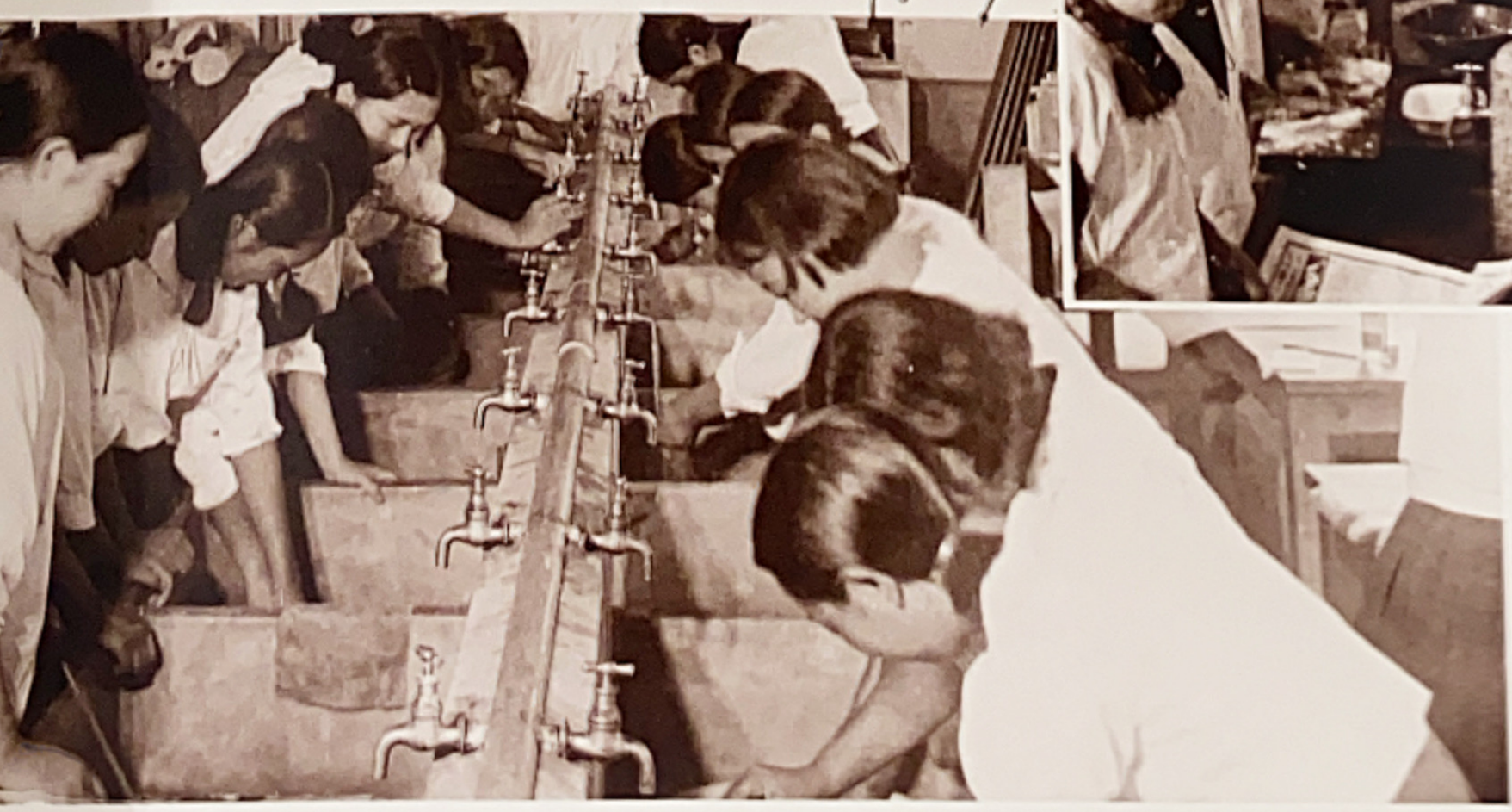




一　　日




Indian Chicken Rice
Scotch Egg







角な部屋同く掃き出す無性者
ではない



中羅干

眞直に……

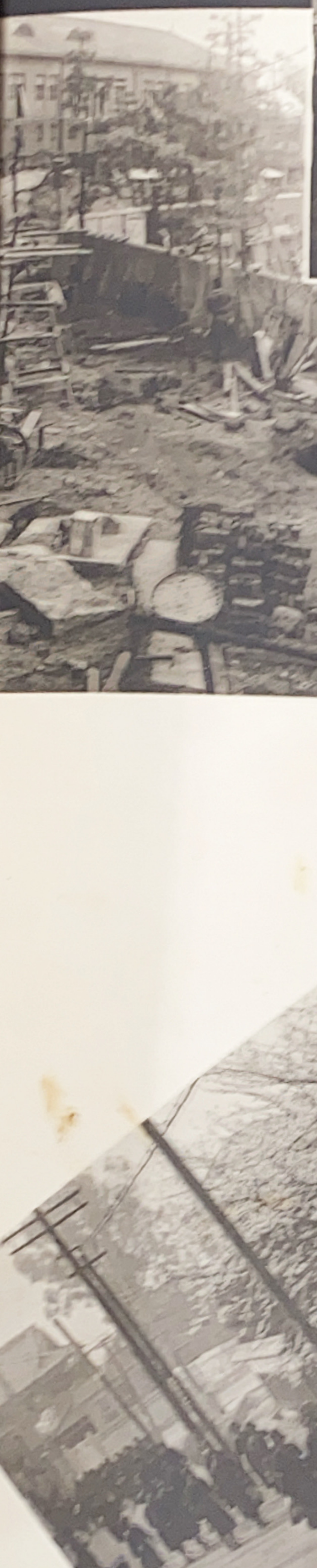


追憶



仇なす風も
はや吹かぬと喜びて
春は快い五月となつた
あついとも愛らしい姿よ！













筑紫の旅











































富士登山















四季のめぐりを終へんとて
冬の迫り來る音を聞く前に
秋はいかに
思ひ深き美を示すぞや





運動會











催物











觀艦式と みなとの祭





















































さらばわが學舍（まなびや）

丘の櫻は來ん春も
あかき蕾をつくるべし
されど我らをこの庭に
又みんことはよもあらじ
　咲けよ〳〵〳〵丘の櫻

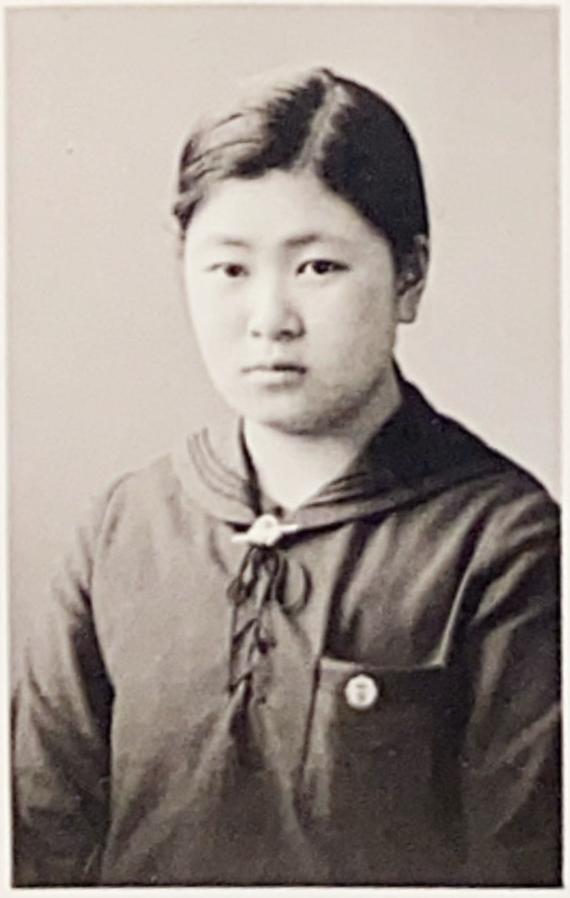
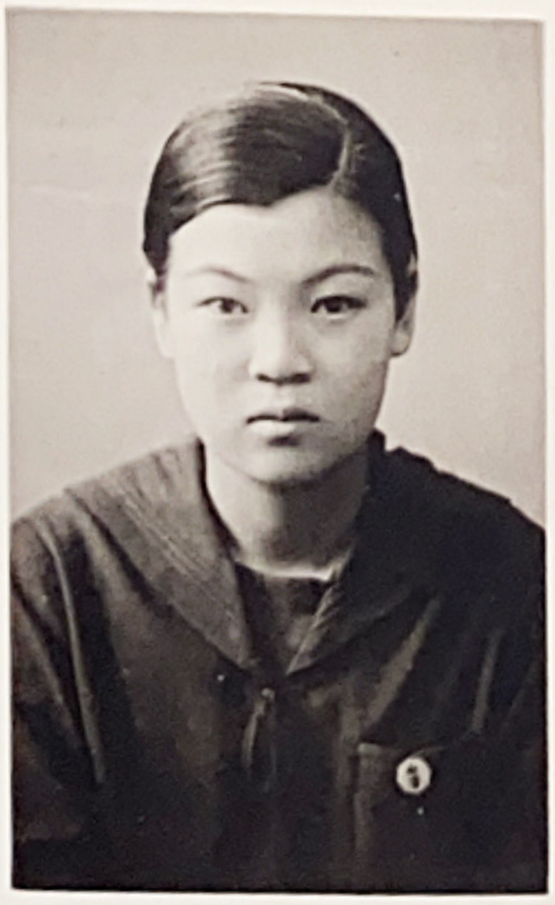
古びし鐘は朝夕に
かはらず時を告くるへし
されどわれこの聲音は
ふたゝび門にきかざらん
　鳴れよ〳〵〳〵古き鐘

われらはこゝに諍ひぬ
また涙しぬ　微笑みぬ
おもひで多き春秋の
繪巻を繰むる園生かな
　稔めよ〳〵〳〵若き繪巻

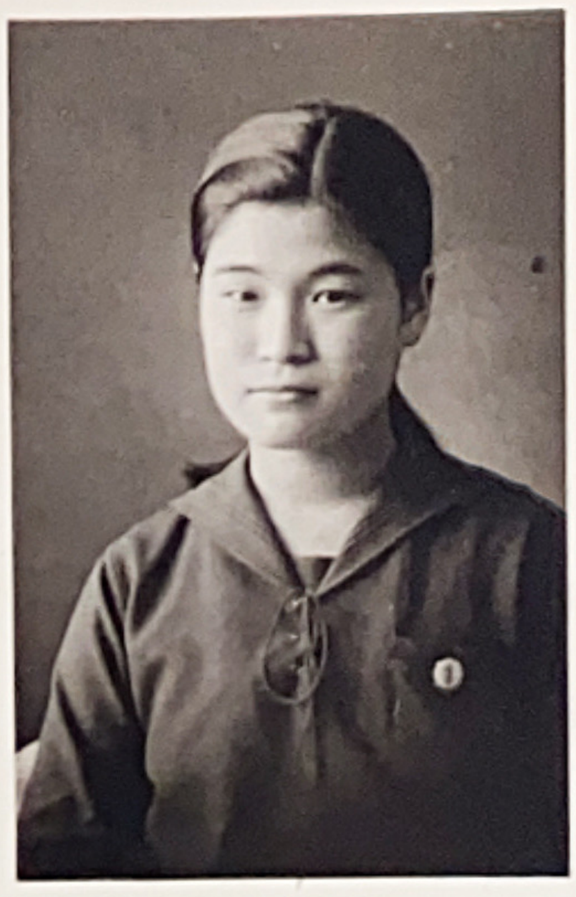
校舍の壁に刻みたる
友とわれとの頭字を
小雨ふる日に佇みて
幼き子等はいかにみん
　見よや〳〵〳〵その頭文字

あふるゝ涙おさへつゝ
往きては戻る石疊
校舍の窓は夕燒けて
わが世の春は暮るゝなり
　さらば〳〵〳〵わが學校

西條八十詩











































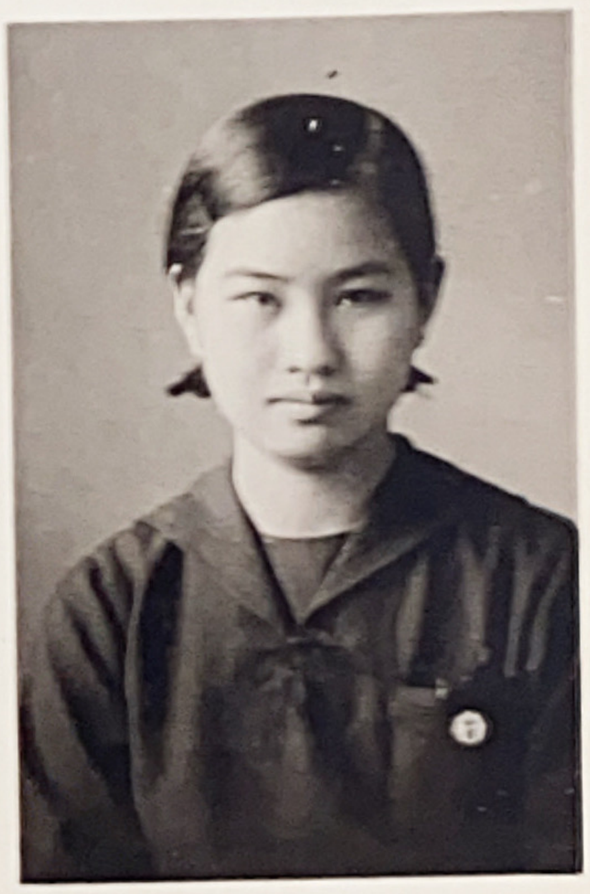


























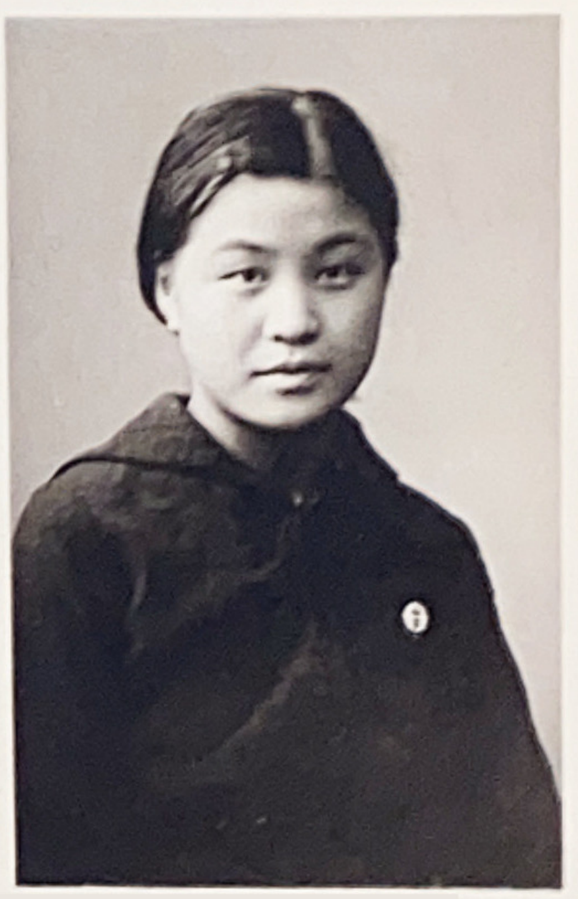






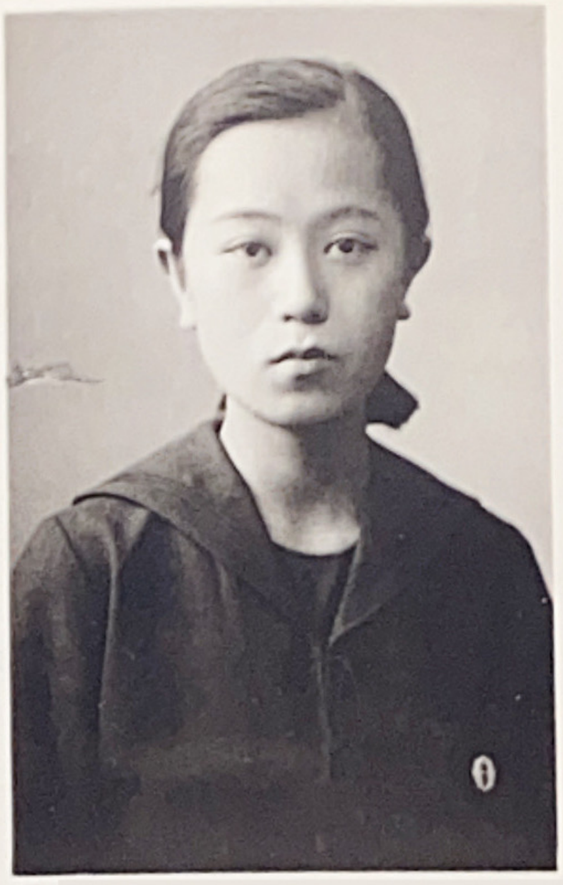








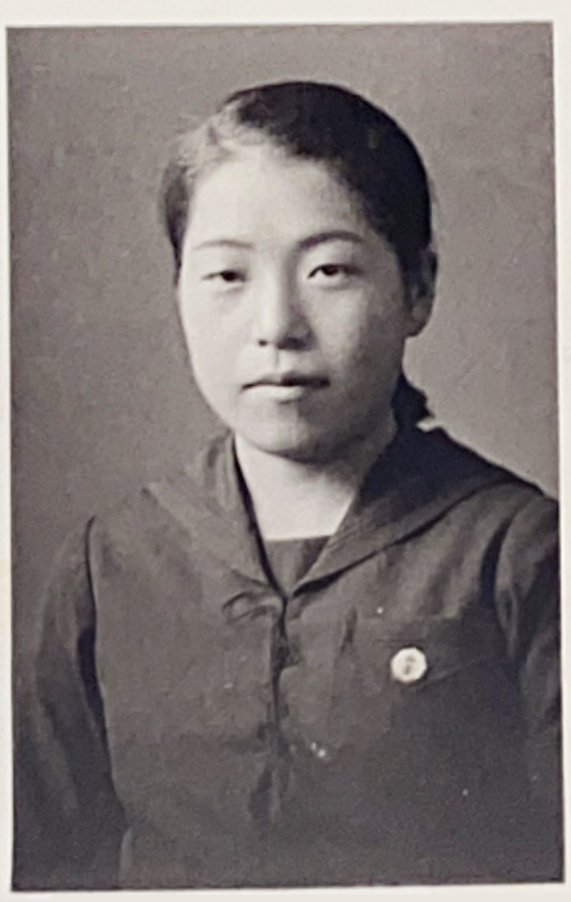


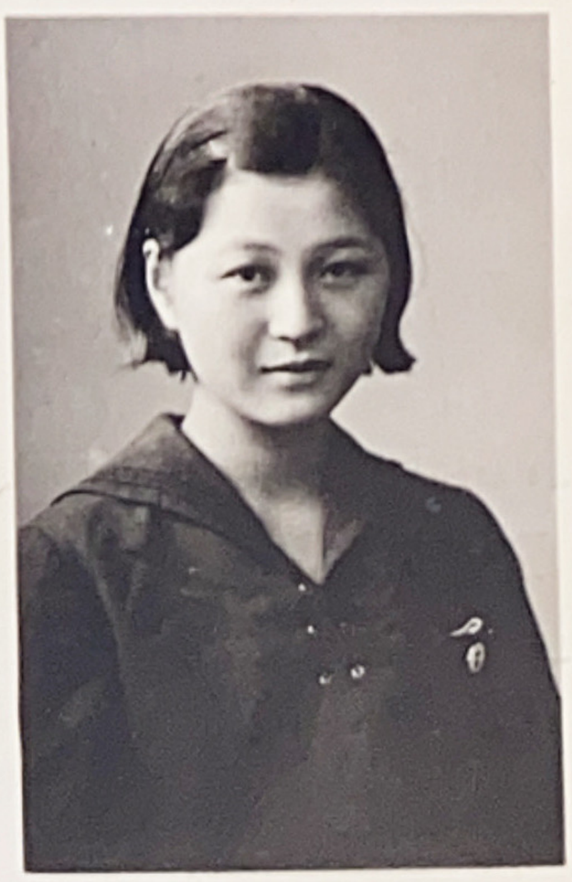















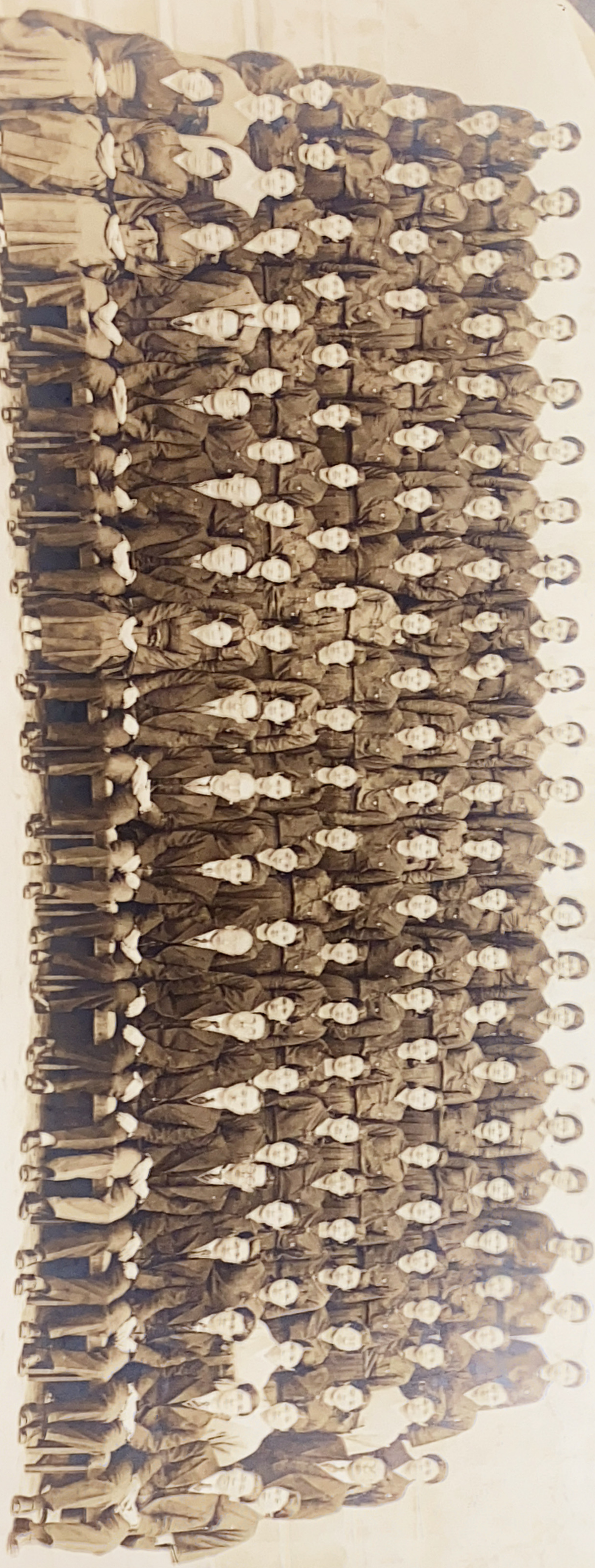









卒　　業　　式





編輯後記

第九回アルバム委員一同

私達の一生を通じて最も懐しい思出をつゞるアルバムが出來ました。つたない私達の手によつて、出來た物でございませうが、試驗勉强も出來ずに市田に通つたり毎日七時過ぎまでかゝつて夜深けの家路をたどつたり、ともすれば、くづれようとする心を皆様の信頼を思ひ起しては、鞭うつてまゐりました。私達にとりましては、小さいながら最も多くの努力と、出來るだけの犧牲とを以て作り上げた物でございますから至らぬ点はどうぞ御寛容下さいませ。

やがて、三月十一日の日となれば五ツ年互に手を取つて、睦み合つて來た私達は、緑の松影深き再度谷を後にして、それ〳〵の運命に導かられ、波風荒き社會に出なければなりません。

やがて花咲き鳥唄ふが如き御幸福がおとづれて、女學生時代の理想が實現せられた時、懐しき追憶を以て此のアルバムは、お手にとられる事でございませう。

又事志と違ふ時、過去の空想を獨淋しく憶ひ起す種とならないとは、此の變轉絶え間無き實社會に、於て、どうして、斷言する事が出來ませう。善きにつけ、悪しきにつけ、かう云ふ時に此のアルバムが御手に取られて、どんなに慰藉となるでございませう。嬉しき折にも、悲しき折にも百余人の最も親しく睦み合つた友の居る事を、どうぞ御忘れ下さいますな。

では皆様何時までも〳〵御健康で御幸福にお暮し下さいませ。

【非賣品】

印刷　細谷眞美館

神戸市神戸區元町通四丁目
電話三局　参〇八番
同参五番